

# 月1回、親子で気軽に 地域活動に参加！

**市**街地にある貴重な水辺として市民に親しまれている江津湖。多くの水生生物や野鳥の生息地にもなっているほか、近くには熊本市動植物園や遊歩道、公園もあり、休日ともなれば多くの親子連れなどでにぎわいます。そんな「市民のオアシス」江津湖の環境美化に、長年取り組んでいる団体が「江津湖の自然と水を守る会」(以下、守る会)です。毎月第2土曜に行われている上江津湖周辺の清掃活動に、探検隊メンバーの船本さん親子が参加しました！



水際の下りて行けない場所のゴミを取る「秘密兵器」。釣りざおを改造して作ったお手製の網



けっこうたくさんあってびっくり！

**子どもと一緒に参加できるのが魅力！**

普段は地域活動に参加する機会がなかなかありませんが、守る会の清掃活動のように親子で気軽に参加できる活動があると、「やってみよう！」と思えます。朝早い行事だと、1日を有効に使えるのも助かります。(船本里美さん)



体験後の感想

たった1時間でこ〜んなに集まりました！

集まったゴミを前に充実感いっぱい船本さん親子



ゴミ拾い楽しかったヨ！

## 探検隊が体験たい！

2018年  
5月11日号  
掲載

### 江津湖の清掃活動を体験



豊富な地下水が湧く江津湖。「日本一の地下水都市」と称される熊本市のシンボルの存在

いつも遊びに来ている江津湖をキレイにするぞ〜！

探検隊メンバー  
船本里美さん  
あきと  
聖人くん



**午**前7時受け付けを済ませた船本さん親子は早速「あ〜ここにゴミがあるよ〜」とすぐにタバコの吸い殻を発見し、「ゴミ拾いの名人」ぶりを発揮。その後も遊歩道沿いや水辺などを歩きながら、他の参加者とともにゴミを集めていきます。



ゲーム感覚で子どもも意外と楽しそう

小さな体で一生懸命に金ばさみを使い吸い殻を拾う聖人くん

**約**1時間の清掃活動で集まったのは、45ℓのビニール袋約8袋分のゴミ。船本さん親子もキレイになるのが気持ちいいし、いい運動にもなりました。笑。と笑顔集められたゴミは守る会の皆さんが分別した後、業者に引き取ってもらいます。この日は、船本さん親子以外にも親子での参加が目立ちました。

### 江津湖の自然と水を守る会

当会は、画図校区自治協議会の構成団体として、昭和56年から活動を続けています。「できる時に参加、決して無理せず」を合言葉に、校区内の住民だけでなく画図小学校の児童たちや校区外の方、企業・団体の有志などにも参加してもらっています。私も20年以上続けていますが、以前に比べゴミの量は確実に減っています。ぜひ皆さんも、朝の散歩のつもりで気軽に参加してみませんか。

私たちが活動しています！



江津湖の自然と水を守る会  
代表 多神田喜代太さん

- 活動時間  
毎月第2土曜 夏季(4~9月) 7:00~8:00、  
冬季(10~3月) 7:30~8:30
- 集合場所  
上江津湖・宮本ボートハウス前駐車場
- 申し込み  
不要(参加希望者は、当日直接集合場所へ)  
※清掃道具(金ばさみ、ビニール袋)等は、  
会で用意していますが、軍手は各自持参ください  
【問い合わせ先】活動に参加したい方は  
090(6298)1145[多神田さん]まで



ダイジェスト Vol.2

## 地域の特色を生かした 独自の取り組みの紹介

熊本市内には92の校区があり、新興住宅地、中山間地域、中心市街地など、校区ごとに特色が異なるだけでなく、それぞれの地域で受け継がれている歴史や文化もあります。そうした“わが町”の持つさまざまな財産(ヒト、モノ、コト)を生かした、まちづくりの実例を紹介します。



## 地域の偉人や 名所・旧跡のPRと “まちづくり”との関係は？



▲▼昨年10月、市文化振興課主催で行われた「歴史ウォークin沼山津」には、約60人が参加し、横井小楠の足跡をたどりました(写真提供/秋津まちづくりセンター)



▲小楠没後150年(生誕210年)を記念して開催された全5回の講演会で墓前祭への思いを語る富澤会長(写真提供/秋津まちづくりセンター)

### 今後も続く顕彰企画 功績を知り、地域を知ろっかけに

秋津地域では、今後も小楠の没後150年・生誕210年にちなんだ企画が予定されています。また、熊本地震の影響で休館となっていた横井小楠記念館も、昨年11月に資料館が再開。倒壊した「四時軒」(小楠の旧居)も2020年度中の復旧を目指しています。秋津地域以外の皆さんも、イベントに参加したり資料館を訪れたりして、郷土の偉人について、そして小楠が暮らした地域について知ってみませんか。

問 秋津公民館 ☎096(365)5750 /  
横井小楠記念館 ☎096(368)6158



◀顕彰会の活動についてだけでなく、横井小楠が残した功績なども詳しく教えてくれた富澤会長

顕彰会が、発足から約60年と歴史ある会だと知り驚いた一方で、あくまで地域活動の一環で会員も地域の方限定と聞き、残念に感じました。垣根を下げて誰もが入会できれば、郷土の偉人をより多くの人に知ってもらえる機会が増えるのでは。熊本地震で被害を受けた横井小楠記念館(四時軒)が再開したら、子どもたちを連れて訪れてみたいです。

石井さん

### 探検隊メンバーの取材メモ



熊本に住んでいても、横井小楠について詳しく学ぶ機会がなかなかないため、顕彰会のような団体が地域にあることがとてもうらやましいです。顕彰する行事やイベントには、県外からも参加者があると聞き、広く親しまれている偉人なのだと感じました。横井小楠の歴史を次の世代につなげていく活動の今後が楽しみです。

山田さん

## What's まちづくり 2019年 12月18号 掲載

私たちが聞いて  
きました！

探検隊メンバー(左から)  
山田虹歩さん  
石井友美さん



横井小楠顕彰会  
会長  
富澤健二郎さん

### 幕

末に活躍した肥後(熊本藩出身の儒学者で明治維新の立役者となった坂本龍馬や勝海舟、吉田松陰)にも多大な思想的影響を与えた横井小楠。その功績を後世に伝えるために活動しているのが、彼が晩年を過ごした秋津地域の「横井小楠顕彰会」です。同会会長を務める富澤健二郎さんによれば、会の発足は約60年前。戦前から田縁のある人たちが命日に墓参しており、昭和30年ごろに「顕彰会」として活動するようになったようです。

同会は、秋津地域内の4つの小学校区(秋津、校木、校木東、若葉)の町内自治会長、校区自治協議会長、地域公民館長、各小学校校長など、約60人で構成されています。主な活動は、2月に行われる「墓前祭」の準備や運営。また、本年度は横井小楠の生誕210年・没後150年の節目に当たることから、PRグッズの製作、秋津公民館との共催による講演会(5回シリーズ)の開催など、例年以上に多くの活動がありました。

### 地域の各種団体やまちセンも 顕彰会の活動をサポート

このほかにも、本年度は地域のイベントなど運動して、横井小楠の名をPRするため、積極的な取り組みを行っている同会。しかし、「顕彰会だけでは、人手も資金も足りない。地域の方々にもさまざまなサポートをお願いしています。」



郷土が誇る維新の先駆者  
横井小楠  
顕彰会で製作したPR用の横断幕  
(写真提供/秋津まちづくりセンター)

「まちづくり」につながる話です。「墓前祭では、横井小楠が2人のおいに送った「送別の語を、小学生たちが暗唱します。こうして彼の業績を残した言葉に触れることで、自分が生まれ育った地域に誇りを持つてほしい」地域の偉人を対外的にPRするだけでなく、地域に暮らす人々にとっても、よりどころとなるよう理解を深めるのも、顕彰会の重要な役割となっているようです。

## 地域の特色ある行事を 長く続けるためには どうしたらいいの？



▲2日間で計17組が出演した「ながなすコンサート」。飽田地域にはない行事の一つです



▲11月に行われた参加グループを集めての全体会議。当日の進行や裏方での役割確認などを行います



▲コンサートの照明や音響も地域住民が担当。細かな演出までこだわって企画を進めます

### 出演者と観客が一体！ 地域のチカラを 盛り上げる手作りコンサート

昨年12月8日・9日の2日間、飽田まちづくりセンター(飽田公民館)で行われた「第20回ながなすコンサート」。両日とも、受付には開場前から入場を待つ人たちの列ができ、コンサートを楽しみにしている地域の方々の熱気が伝わってきました。1日目は軽音楽、2日目はバンドの演奏があり、耳なじみのある曲では会場全体で口ずさんだり、手拍子をしたりと、会場が一体となって盛り上がっていました。また、ロビーでは公民館で講座の受講生や地域の方々による作品展示や、野菜の販売などを行う「母ちゃん市場」(8日のみ)もあり、多くの人が足を止めていました。



▲1日目の軽音楽は、ピアノをはじめ、クラシックギター、オカリナなど、多彩な演出。ステージの照明も本格的！



▲照明や音響、会場整理などの裏方業務は、出番のない出演者たちが交代で担当

### 出演者と観客の感想



他のイベントより和やかで、楽しみながら歌えます。地元(飽田)のメンバーもいるので、コンサートで知人と会えるのも楽しみの一つ。来年もまた出場したいです！

コールピッコラの皆さん



出演している友人の応援にきました。住まいは飽田地区ではありませんが、コンサートには毎年足を運んでいます。

緒方さん

## What's まちづくり 2019年 1月5日号 掲載

私たちが聞いて  
きました！

探検隊メンバー  
緒方幸江さん



飽田音楽ネットワーク(左から)  
北野裕子さん、出口起秋さん  
代表 横溝秀男さん

## 多くの人が「広く浅く」関わることで長続きの秘けつ！

今回20回目を迎えた飽田地域の「ながなすコンサート」。始まったきっかけは、飽田公民館で行われている各種講座の発表の場づくりでした。地域の住民有志で飽田音楽ネットワーク(飽田公民館)のサポートを受けながらコンサートの企画・運営を行っています。開催当初から関わっている出口起秋さんは、「初めは『2、3回続けばいいかな』という軽い気持ちでした(笑)。それが今では地域になくてはならない行事になっています」と話します。

例年、15、20組が参加し、2日間にわたって行われる同コンサート。特徴は、参加するグループのメンバーに必ず1人は飽田地域の住民もしくは地域で働いている人が入っていること。さらに、当日の演奏だけでなく、事前の会議や当日の裏方も参加者全員で役割を分担しています。



全体会議では出演するグループの代表も積極的に発言。「他のコンサートとは違う楽しさがある」という声も

「皆が関わることで『自分たちのコンサート』という意識が芽生え、愛着や責任感が出るのだと思います。飽田音楽ネットワークの代表を務める横溝秀男さん。

### 探検隊メンバーの取材メモ

全体会議に参加してみて、「地域を盛り上げよう！」という皆さんの熱い思いと、音楽という共通の趣味を通じたつながりの強さが、20年も続いている要因だろうと感じました。と同時に、そんなつながりを持てる飽田地域が、とてもうらやましいです！ 出演者が楽しみにされている様子もひとしほと伝わってきました。音楽は幅広い世代が交わることができるのもいいですね。

緒方さん